

東京都荒川水系における国内外来種オヤニラミの初記録

太下 蓮¹・永安由弥²・伊藤 玄³

Author & Article Info

¹ 龍谷大学大学院先端理工学研究科 (大津市)
kawamebariRen1@gmail.com (corresponding author)
² 東久留米川クラブ (東久留米市)
³ 龍谷大学生物多様性科学研究センター (大津市)

Received 16 April 2025
Revised 17 April 2025
Accepted 17 April 2025
Published 18 April 2025
DOI 10.34583/ichthy.54_0_42

Ren Oshita, Yuya Nagayasu and Gen Ito. 2025. First specimen-based record of *Coreoperca kawamebari* (Sinipercidae) from the Arakawa River system, Tokyo Metropolis, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 54: 42–44.

Abstract

Five specimens of *Coreoperca kawamebari* (Temminck and Schlegel, 1843) collected from the Arakawa River system in Tokyo Metropolis, Japan, represented the first specimen-based records of the species from the river system. Although the species is native to Honshu west of Kyoto Prefecture, it has been recorded as a domestically introduced species in several regions, including Tokyo Metropolis, and Kanagawa, Shizuoka and Mie prefectures. The species has also been recorded from the Tama and Sakawa river systems in Tokyo and Kanagawa, respectively, located near the Arakawa River system. The populations in these regions clearly represent introduced populations.

オヤニラミ *Coreoperca kawamebari* (Temminck and Schlegel, 1843) は、京都府桂川・由良川水系以西の本州、四国東北部、九州北部に自然分布する純淡水魚で (木村ほか, 1994), 希少性や特異な見た目から観賞魚としての人気が高い (今井・中原, 1957; 宮地ほか, 1976; 高久・諸澤, 2021). 一方で、神奈川県、静岡県、三重県など自然分布域外での生息が多数報告されており (藤田, 2019; 瀬能, 2021; 太下・伊藤, 2023; 山川ほか, 2023), 日本各地で分布を拡大している. また、本種は動物食性であり (今井・中原, 1957; 川島・山根, 1989; Choi et al., 2020), 在来の水生昆虫類や甲殻類への捕食圧が懸念される (佐藤・丸山, 2022; 太下ほか, 2023). そのため、本種は環境省の生態系被害防止外来種リストの総合対策外来種のほか、滋賀県

の指定外来種、愛知県の公表移入種、愛媛県の侵略的外来種に指定されており、対策が必要な外来種であると認識されている (滋賀県, 2007; 環境省・農林水産省, 2015; 大仲ほか, 2022; 愛媛県, 2023).

東京都では、多摩川水系でのみオヤニラミの記録がある (国土交通省, 2002). 荒川水系黒目川支流の落合川流域では、2020年3月21日に東久留米川クラブの活動 (川塾) でオヤニラミが確認されているが、標本を伴う形で記録されていなかった (永安, 未発表データ). 落合川においては、アブラハヤ *Rhynchocypris lagowskii steindachneri* (Sauvage, 1883) や、ホトケドジョウ *Lefua echigonia* (Jordan and Richardson, 1907), ムサシノジュズカケハゼ *Gymnogobius* sp. 1 の生息が確認されており (佐藤, 2017, 2023), 生息空間や餌資源を巡る競争や捕食圧など、オヤニラミが在来魚類に悪影響を与える恐れがある.

2024年に著者らが落合川でオヤニラミの生息状況の調査を行ったところ、複数個体のオヤニラミが採集されたので、標本に基づく荒川水系からの記録としてここに報告する.

材料と方法

東京都荒川水系の落合川流域において、2024年5月4日に本流で、5月5日に本流に流入する一支流において、タモ網を用いて魚類を採集した. 採集されたオヤニラミ属魚類は、滋賀県立琵琶湖博物館に標本として登録した (LBM1210061346, 5個体, 標準体長 59.6–72.2 mm, 東京都荒川水系落合川の支流, 2024年5月5日, 太下 蓮採集). また、太下・伊藤 (2023) に従い、右腹鰭をDNA解析用試料として保存した.

外部形態の計測は Hubbs and Lagler (2004) に従い、波戸岡 (2013) によって示された生時の体色、鰓蓋上方の眼状斑、主鰓蓋骨の上方の棘、尾鰭の形態を基に種同定を行った. 近縁種であるコウライオヤニラミ *Coreoperca herzi* (Herzenstein, 1896) との判別は、日比野ほか (2019) を参考に側線有孔鱗数 (オヤニラミ: 33–38, コウライオヤニ



Fig. 1. Fresh specimen of *Coreoperca kawamebari* from the Ochiai River, the Arakawa River system, Tokyo Metropolis, Japan (LBM1210061346, 1 of 5 specimens, 62.6 mm SL).

ラミ：50–59），背鰭軟条数（オヤニラミ：11–13，コウライオヤニラミ：13–14）の計数により判別した．側線有孔鱗数については双眼実体顕微鏡を用いて計数し，標準体長（以後 SL と表記）についてはノギスを用いて 0.1 mm の単位で計測した．なお，本報告で採集されたオヤニラミ属魚類は全てオヤニラミと判断されたが（結果参照），本種は滋賀県による「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」において指定外来種に指定されており，県内での飼育には許可が必要となる．本研究においては生かしたまま滋賀県内の龍谷大学瀬田キャンパスの実験室に持ち帰ったが，実験室到着後にただちに標本とした．

結 果

落合川本流での調査ではオヤニラミ属魚類は採集されなかった．一方，支流での調査では，5 個体（59.6–72.2 mm SL）のオヤニラミ属魚類が採集された．これらの標本は，生時に眼の後方に朱色帯があること，鰓蓋上方に青色かつ前方が赤く縁取られた（固定後は暗色）眼状斑があること，主鰓蓋骨の上方に 2 本の大きな棘があること，尾鰭後縁が円形であること，側線有孔鱗数が 34–38 であること，背鰭軟条数が 11 であることにより，波戸岡（2013）と日比野ほか（2019）に従ってオヤニラミに同定された（Fig. 1）．

また，情報が公開されている国内の自然史標本コレクションに，荒川水系産のオヤニラミが登録されていないか，サイエンスミュージアムネット [URL](#) で調査した結果，神奈川県立生命の星・地球博物館に収蔵されている東京都産のオヤニラミ標本（KPM-NI 15959, 15960, 40564–40591, 67889）を発見したが，これらを実際に調査したところ多摩川水系産であった．

考 察

東京都からのオヤニラミの記録は，2001 年に初めて多摩川水系で生息が確認されて以降（国土交通省，2002），同水系では継続的に本種の生息が確認されている（国土交通省，2008, 2014, 2018, 2023）．荒川水系では，2013–2016 年に落合川を含めた新河岸川流域全体から 15 科 48 種（佐藤，2017），2022 年に落合川を含めた黒目川流域全体から 11 科 32 種（佐藤，2023）の魚類が確認されているが，いずれの文献においてもオヤニラミは確認されていない．したがって，本研究で採集された標本は，オヤニラミの荒川水系からの標本に基づく初記録となる．また，オヤニラミの自然分布域は京都府桂川・由良川水系以西であること（木村ほか，1994），荒川水系近郊の多摩川水系と神奈川県酒匂川水系では人為的に放流された外来個体群が知られていることから（国土交通省，2002；瀬能，2021），落合川のオヤニラミも同様に人為的に放流された個体群である．

本研究での落合川での調査では，オヤニラミは 2020 年に初めて確認された地点と同一の支流でのみ採集され，本流からは採集されなかった．2020 年時点では，落合川本流でも確認されたが，駆除活動を行い，以降約 1 年間はこの支流周辺でのみ継続的に確認される状況であった（永安，未発表データ）．2022 年の佐藤（2023）による調査では落合川およびその下流の黒目川ではオヤニラミは確認されていないことから，現時点では落合川の支流という局所的な分布にとどまっている可能性が高い．

謝 辞

龍谷大学先端理工学部の中村裕樹教授には，研究設備や実験器具の使用を許可していただいた．多摩六都科学館

の北村沙知子氏には貴重な情報のご提供および調査に必要な便宜を図っていただいた。神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能 宏博士，和田英敏博士には標本観察にご協力いただいた。滋賀県立琵琶湖博物館の川瀬成吾博士には，標本を登録していただいた。龍谷大学大学院理工学研究科の田邑 龍氏には，調査にご協力いただいた。また，Ichthy 編集委員の松沼瑞樹博士には原稿の改定をする上で有益なご意見をいただいた。ここに記し，厚く感謝申し上げます。

引用文献

- Choi, J.-Y., S.-K. Kim, J.-C. Kim and J.-D. Yoon. 2020. Trophic position and diet shift based on the body size of *Coreoperca kawamebari* (Temminck & Schlegel, 1843). *Journal Ecology and Environment*, 44, doi: 10.1186/s41610-019-0145-0. [URL](#)
- 愛媛県. 2023. 愛媛県野生動植物の多様性の保全に関する条例に基づく侵略的外来生物の公表について. [URL](#) (22 Sept. 2024)
- 藤田朝彦. 2019. オヤニラミ, pp. 346–347. 細谷和海 (編) 増補改訂日本の淡水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 波戸岡清峰. 2013. ケツギョ科, pp. 747, 1957. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Hubbs, L. C. and F. K. Lagler. 2004. *Fishes of the Great Lakes region*. Revised edition. The University of Michigan Press, Ann Arbor. xvii + 276 pp.
- 日比野友亮・田口智也・岩田一夫・古橋龍星. 2019. 宮崎県大淀川水系から得られたオヤニラミ属魚類コウライオヤニラミ. *Nature of Kagoshima*, 45: 243–248. [URL](#)
- 今井貞彦・中原官太郎. 1957. オヤニラミ *Coreoperca kawamebari* (T. & S.) の生活史, pp. 591–601. 末広恭雄・大島泰雄・松山義夫 (編) 水産学集成. 東京大学出版会, 東京.
- 環境省・農林水産省. 2015. 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト. [URL](#) (21 Sept. 2024)
- 川島隆寿・山根恭道. 1989. 河川水域特産資源管理対策事業 江川水系出羽川におけるオヤニラミ生息状況調査. 島根水試事業報告平成元年度, 167–174. [URL](#)
- 木村清朗・松井誠一・竹下直彦. 1994. オヤニラミ, pp. 443–449. 水産庁 (編) 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料. 水産庁, 東京.
- 国土交通省. 2002. 河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 調査結果の概要 平成 13 年度. [URL](#) (22 Sept. 2024)
- 国土交通省. 2008. 河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 調査結果の概要 平成 18 年度. [URL](#) (22 Sept. 2024)
- 国土交通省. 2014. 河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 調査結果の概要 平成 23 年度. [URL](#) (22 Sept. 2024)
- 国土交通省. 2018. 河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 調査結果の概要 平成 28 年度. [URL](#) (22 Sept. 2024)
- 国土交通省. 2023. 河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 調査結果の概要 令和 3 年度. [URL](#) (22 Sept. 2024)
- 宮地伝三郎・川那部浩哉・水野信彦. 1976. 原色日本淡水魚類図鑑 全改訂新版. 保育社, 大阪. 462 pp.
- 大仲知樹・向井貴彦・谷口義則. 2022. オヤニラミ, p. 67. 愛知県環境調査センター (編) 愛知県の外来種ブルーデータブックあいち 2021. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋. [URL](#)
- 太下 蓮・藤田宗也・伊藤 玄. 2023. 滋賀県宇曾川水系における国内外来種オヤニラミ (スズキ目ケツギョ科) の初確認. 伊豆沼・内沼研究報告, 17: 39–46. [URL](#)
- 太下 蓮・伊藤 玄. 2023. 三重県における国内外来種オヤニラミ (*Coreoperca kawamebari*) 初記録. 伊豆沼・内沼研究報告, 17: 29–37. [URL](#)
- 佐藤正康. 2017. 新河岸川水系の魚類相. 埼玉県立自然の博物館研究報告, 11: 65–72. [URL](#)
- 佐藤正康. 2023. 2022 年 柳瀬川・黒目川水系の魚類相. 川の博物館紀要, 23: 45–56. [URL](#)
- 佐藤快樹・丸山 敦. 2022. 滋賀県における国内外来魚オヤニラミの胃内容物. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 18: 37–40. [URL](#)
- 瀬能 宏. 2021. 絶滅危惧種にとどめ! ? —最近の足柄平野の外来魚事情. *自然科学のとびら*, 27: 30–31. [URL](#)
- 滋賀県. 2007. ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例第 27 条第 1 項の規定による指定外来種の指定. [URL](#) (21 Sept. 2024)
- 高久宏佑・諸澤崇裕. 2021. ネットオークションによる絶滅危惧魚類の取引状況と取引特性の類型化. *保全生態学研究*, 26: 249–260. [URL](#)
- 山川宇宙・鎗田めぐ・森口宏明. 2023. 静岡県伊豆半島で採集された国内外来魚オヤニラミ. *ニッチェ・ライフ*, 11: 3–5. [URL](#)